第八二部

高田藩記錄

自慶應二年
至　　三年

富澤氏藏書

上越教育大学学校教育学部附属中学校
1981 2.24
2885-82
蔵書

007
1
82
10849

附属中学校

御別紙案 三

門近衆

上越教育大学
'81. 4. 1
附属図書館

摂津守大坂屋敷振
野之内振　場合米屋
之儀定又屋

十月廿日
一 此度依願差上候 御堂場所拝借 右同見立 候様
　以之外ニ付 早々 御屋敷拝借
　出来 東御所存候 娘 不来ニ付 御沙汰
　御本願寺 案
　願出ニ付 出入 思召 候得共 御存中 其外 被
　此上 可除 勤願候
　自国 所 寄 御用 致 候 実 安
　宜敷様 此振 御 請 有 之 候 仍 如 件

　　卯月廿九日
　　　　　　　御奉行御中

一去亥年以来度々御咎被為蒙候処、今般恐入存候
朔服之儀被為蒙候
今般外国船之儀、兵庫表江渡来中、右之次第ニ付
切迫之時節柄ニ付、右之義以外国之事
御許容之義奉願候、依之奉願候
御食之儀、至当之儀、所定不被為在候、御当家
存之一通只而已ニ而何卒出候様御願奉願候、書
之内其之儀等之通ニ而無服揆以之書面之通
中納言

外ニ御名ゟ
門
御名
毛利大膳父子伏罪之儀御疑惑之廉
有之ニ付、右為糺大目付永井主水正同
并戸川鉡三郎・松野孫八郎芸州広
島表江差遣、大膳末家并家老之内且
寄合諸隊中之者ニ而不審之廉相糺候上
猶其上ニ而沙汰有之候間、御中軍出先
迄罷出候様、十二月十日限芸州

海田市より出張致し居候者待受ヶ市より先
為軍目付遠藤鋭雄殿罷越候ニ付引取候様
去ル頃小林伊織殿罷越候処同所ニ
御待受藝州廿日市ニ出張之処差遣候
置申候処[illegible]支度白ニ而割合引取ニ而追々
御承知ニ而候得共[illegible]罷越候段可
上候也

十月十八日
一、遠藤鋭雄殿[illegible]
遠藤鋭雄殿[illegible]中ニ[illegible]
[illegible]目付[illegible]
[illegible]
一 [illegible]下
一 [illegible]下
一 提灯下
一 [illegible]
一 [illegible]下
右[illegible]

一 右之外除右同断ニ付而當分ニ至候ニ付而
中段雜事之事并御陣中ニも可有之哉 御座候ニ而可為
宿送之上ニ候處 右様ニ而相違 候而當分之御用
仕候ニ付 其上右之通當分之ニ而候積り之事 此方様當分
之御用被 候ニ付 被成候 相合上之ニ而 可申上
此方様當日限之前積之ニ而候 以上 急度相成當分之
當日限之右相違候積之事 右之通申上 此方可申上
之ニ而候 相違候 可申 此方限中ニ而可申上

十二月十四日　上田[illegible]

一 御先触 出來　十二月廿五日　大坂出立之
一 御證文 渡　同月廿六日　同　御泊リ
一 御役儀　同　廿七日　同　出立
右之通

従大坂舟之海路廻船之 御休泊書
但日数十四泊十五日振

大坂ゟ
三り　尼ケ崎　御昼
弐り
一 西之宮　御泊

弐り 住吉 御昼
一 三り 兵庫ニ 御泊
五里 大倉谷 御昼
一 日 [illegible] 御泊
三り 長池 御昼
一 弐り半 加古川 御泊
加古川 船渡し
三り 御着 御昼
一 壱り拾丁 姫路 御泊
姫路 船渡し
弐り 弐り十八丁 鵤 御昼
正条川 船渡し
一 五り 有年 御泊
有年 船渡し
弐り半ヨ 三石 御昼
一 弐り半 片上 御泊
吉井川 船渡し
弐り半 一日市 御昼
一 弐り 藤井 御泊
弐り半ヨ 岡山新屋 御昼
一 弐り半ヨ 板倉 御泊
三り 川辺 御昼
一 三り八丁 矢掛 御泊
矢掛川 船渡し
七日市 御昼
一 弐り半 神辺 御泊
三り半八丁 今津 御昼
一 尾ノ道 御泊
但 [illegible] 五十丁 [illegible]

まつ宿
一 布々 〜 湊泊 三り 三原 泊屋
三り町 田尾市 東大川 但船不り 泊屋
まつ三千丁
一 西條 内泊 三り 一貫田 泊屋
但是ゟ七千丁余り
下り七千丁
一 海田市 泊宿
以上

三月中

一 船々
一 江戸表ゟ之天野卿御用状之義ニ付色々調方勤之
其外ゟ之存知之泊御状其外之中遣之遣候ニ付
且又年之船中持参し
百目余
一 丁銀 百五拾目　内未中ニ相成
一 日 百文　湊用ニ付相勤
右海田市ゟ江戸表之御用状ニ付勤之
一 壱分海田市ゟ広島表湊用ニ付而御船ニ而持参御用状ノ
件之代銭之義拂方壱貫文余ニ付大分銭受

一 右之外此度大坂住返之者猿楽稽古相極候上者
江戸表ニ而之儀共猿楽共作法之儀猿楽之者共へ申
聞候上者勤之節相守候様可申付今迄之通可申付
大夫共へ可申付候事
右之段大坂町奉行江申達候上者来年中
猿楽候上ハ御届申上候事

御役替
井上信濃守組
御目付
平山伝次郎組
坂江戸表ニ而御届申上候
右勤之節迄
吉川栄次左衛門

右相勤候
三枝壱岐守殿
使番目付
河野大五郎
福井平三郎
御小人目付
中川芳太郎

右之通以書付御届申上候事

一、定

此度　此者猪鹿防候当年作毛荒シ候ニ付鉄炮拝借仕度

候ニ付御願申上候所御聞済被成下　依之当年中

之儀ニ御座候　右鉄炮之儀拝借仕度奉願上候

御吟味之上鉄炮拝借被仰付被下置候　角田猪之助　西垣平八郎

之儀ニ候得者　御手当ニ候

一　右之通出勤之上拝借仕　村役人立会之上ニ而申渡候

一　右鉄炮之儀他人江貸渡し不申候様ニ村役人

申付候

一　此度御用之節出勤仕候者　御用ニ付他国者入込候節者

其村之儀ニ而　出勤仕候　中々者

老人之者　申付　上手之者　出会之者ハ　御用之節

中途ニ而御国境ニ而引取九年ニ至迄申候

二ヶ

一、御国様御預之短刀ハ年明ニ大坂ニ於而ニ而差上候

覚

一、此度上京之寺罷登候ニ付奉願上候、御聞済被為成下候ハヽ難有奉存候
右之段御願申上候処、御用人衆へ御取計被成下候ハヽ難有仕合ニ奉存候
来ル廿九日出立仕度奉存候

一　来ル廿九日出立仕候段、右之段御届申上候

此度右ニ付、此度上京之寺罷登候ニ付、此段御届申上候
右願之通被仰付候ハヽ、御用人衆へ申上置候ニ付、御届申上候
猶又拝借之儀者、来ル廿日迄ニ返済仕候様、[illegible]
右之通相違無御座候、猶又返済之儀ニ付、御願申上候
以後之儀、猶又御願申上候、右之通相違無御座候、以上
右此度申上候通、相違無御座候、以上

之ハ宗右衛門方ニ而拝借金子義并ニ右之段申来ニ付
上ニ而御重役衆中江申達し候処御承知被下
候ニ付当春中ニ而御借用被仰付候ニ而
相成候ニ付返済之義ハ右之中ニ而右年月
限年割ニ而相立候様被仰付候ニ付年々
割限ニ而御返納被成候ニ而右中へ相渡
此分ハ右ニ而上ニ而取立候様申来候
時之儀ニ付急度申上候

二月四日　　生田忠右衛門

一　右之段去々年度又十二月中ニ而去正月晦日迄ニ江戸
表御屋敷ニ而相渡候ニ付右之段川崎限ニ而御済ニ

右之趣を以申上候

覚

一、唐船長崎奉行被仰渡候儀、右船方荷物
義ニ付、何之差障ニも相成候事ニ付、右之趣承知仕
之義ニ付、右之段承知仕候旨申上候

壱

七ヶ

一 國縣九ヶ所者右此外村高ニ而中程村高之 御案内ニ而当
の田所村及人馬ニ而差支之方ニ而 御手伝ニ相山辺地理
御巡覧ニ相成ケ七ヶ所ニ而 御案ニ相成
但 野ニ而差支之ヘハ 御小休ニ相成候 雲助ニ而 足ニ而
其余相ニハ相立候国付 相成候中達

八日

一　当番ニ而居合候ニ付直ニ申出

二月二日松平大坂城代伊豆守様より藤堂和泉守様江

申達之書付写渡

御用之儀有之候間松平長門守松平肥前守名代壱人

壱人ツヽ藤堂和泉守屋敷江明日四時可被差出候

御達之通り

右之通り之趣承知肥前守中野数馬を以申ニ付左之播

壱人宛藤堂和泉守江申来　以近御用之ニ付

右之趣藤堂和泉守様より申来之通御座候

中村を以御請申上候

二月七日　上田主水

一 西村ゟ大手支配同役共石川ニハ小屋之者共罷出候
差遣候由山出役[illegible]来候[illegible]酒[illegible]候[illegible]
[illegible]候由[illegible]相成候　但[illegible]

一 小池役所[illegible]茶道具[illegible]目録[illegible]申候

九日

一 山田[illegible]相成候[illegible]明後十日[illegible]
[illegible]角人[illegible]上田主水申候

一 山田[illegible]相成候[illegible]角人[illegible]
[illegible]上田主水申候
以[illegible]
[illegible]別紙[illegible]
[illegible]
中[illegible]

二月九日

覚

一 士分　何人
一 刀差　何人
一 小者　何人
右之通り

十日
一 小田原宿ゟ[illegible]拾人[illegible]来吉原九宿[illegible]
[illegible]

覚

一 士分　弐百七拾八人
一 徒目付以下帯刀人共　但家来并下々共　九百弐人
一 小者　但武家抱足軽小者之人数并之上　二千百拾人
右之通り御座候、此段申上候、以上

二月十日

[illegible]
吉原[illegible]

十可

一 御手判之儀掛ヶ候處、表向并京之役所被仰付候上者、被成候様ニ可被仰付候

十二日

一 此方御屋敷中立番郡奉行ニ而是迄相勤
　　御用中出勤候 依之出精ニ付
　　金壱両被下之
　　　　　　　　　　　　小頭人目付
　　　　　　　　　　　　瀬尾正作

一 大庄屋大金之義ハ父十郎左衛門此書代ニ而差出候ニ付在職
居候処十郎左衛門義病死仕候 以来迄御年合被下置
父之忠ニ而限壱年壱両ツヽ被下置候処在職之
中務願之義并ニ而同之候 依之出精ニ付尤父
忠ニ而限ニ而被下置候 此度被下置願之通
ニ而候 父之勤合候通被下置候 兼々中出精ニ付
依之御出精之義ニ付 御年寄ニ付候

一 酒井壱岐守[illegible]

十二日

一 [illegible]太[illegible]

[illegible]

候

一 [illegible]早川豊[illegible]

右代り之義[illegible]

[illegible]

[illegible]

河[illegible]

右坂長兵衛

[illegible]

永井[illegible]

河野[illegible]

一 右御用向之大坂表へ着候間候右之通右同役江相達
之候ニ付候
四月朔日中飛脚を以 但 御年寄衆御用向之、右中飛脚ニ而申越ニ者無之候

十四日
一 其後候間候大坂表へ為知申来

十五日

一 早川出羽代ゟ去ル同年思召を以進之候処御用

件松平主膳正を以申上候処相済候旨申来ル

十六日

一大久保出雲守殿同加賀守殿より御状参候大久保遠
兵部八中将様ゟ壱分金弐百疋宛被遣候
此通　御出被成ニ付御稲奉行
ニ付為御取扱御礼申遣候以上
右者為として此度御出ニ付申遣ス　御奉行
当番方より出勤之節可申合

一石川巳八郎義又能登守当月十八日於当日罷候
当住見中川西殿様ゟ御届ケ

一当日当月廿日立戻中之御郡御目見

十七日

一 芸州浅野安芸守殿より名井つ村ゟ白木之通申遣候
時國屋逮部権八宰相へ御紙を以被仰付
之候、御代官ニ而時節書付國屋兵衛
此度ニ付船場中之丁へ申遣候段申越候旨
了承候處利済候向候之旨相定候中之丁へ之答
右之人共申候様ニ付候而段ニ候御代官之段ニ此
候中ニ付候

二月十七日　名井つ村ゟ

一 金二両二分定　逮部権八郎宰相國屋ニ而遣度候
　　　　　　　右之川中ゟ御取替り

右用中右新之義中之御用私共郎事之通之御取次

一 当年も在中之上にては
大猷院様御代々之通、ニ付差上候、上聞ニ達
之儀被申候

一　然ハ此度松平備前守殿ニ付、右者当月
　　朔日以前へ入澤村又七郎出入別紙之通
　　右儀可被申付与御目附衆評議
　　可有之候

　　六月十日
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　御名
　　上聞ニ達候様

別紙
御国条約書之内へ差越候処、右之者被相
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　渡候

以手紙申達候、然者去年十月中出府之面々右之通
御座候ニ付、為念申遣候、以上

松平出羽守　　　　　　　　　　松平土佐守
松平因幡守　　　　　　　　　　松平大膳大夫
細川越中守　　　　　　　　　　松平肥前守
藤堂和泉守　　　　　　　　　　宗対馬守
有馬中務大輔　　　　　　　　　伊達遠江守
松平阿波守　　　　　　　　　　井伊掃部頭
立花飛騨守　　　　　　　　　　松平隠岐守
松平修理大夫　　　　　　　　　松平阿波守
松平安芸守　　　　　　　　　　御名
　　　　　　　　　　　　　　　　小笠原左京大夫
　　　　　　　　　　　　　　　　奥平大膳大夫

十九日

一 当唐船沖合ニ乗来候義、日雇ニ而採油船共ニ乗出
船々ニ而為積方之義者買合之中積方取扱候ニ付、重而
右之者共ゟ相改申達候由ニ付、右之段申来ル

右之趣奉行所江申上ル

一 唐人屋敷江御用ニ付罷越候処、唐人ゟ申聞候者、此節
採油船ゟ蔵方御改之上、日数も相立候ニ付、荷物取扱方解候
作法ニ而候得共、未御沙汰無之、右之通ニ而者差支
且者積戻之節ニ相成候而者、下方共中積等取扱
ニ付右蔵方江差出候ニ付、荷物取扱候所も有之
右積戻之節者船荷物取扱仕度、此段申上候也

可仕筈ニ候得共是迄之通ニ而無之　御用向不都合ニ付奉願
上候ニ付而者差戻事ニ候得共　此度格別之訳ヲ以御聞済被
遊候ニ付向後相守可申候　此段御聞済可被
成下候以上

慶応二寅三月

米屋　佐次兵衛
日　大三郎

御用会所
御役人衆中様

一 本年之儀者別段之儀ニ付当国并江戸表之外積出候儀不相成候
右之通

覚

一 当国并江戸表江積出之節者往来手形相添可申候
一 此節之儀者格別之儀ニ付是迄之通
米屋共之儀者米穀売買之儀不相成候ニ付
不都合之儀無之様精々相心得可申候
割合之儀者難渋之者江用捨可致候
精々可相心得事ニ候
御用会所江申出候

三月

米屋　共

考

廿二日

一 阿蘭陀人召連候英吉利人義、此節長崎表[illegible]差上候ニ付、
大坂表[illegible]之船ニ而長崎へ[illegible]英吉利人義ハ船中ニ而
被相渡候[illegible] 但英吉利人義翌廿二日[illegible]

廿三日

一 出島乙名方より左之通申越候

大通詞[illegible]
小通詞[illegible] 井[illegible]

去ル二十日[illegible]阿蘭陀[illegible]長崎[illegible]参候
内通詞[illegible]中山[illegible]

一 阿蘭陀[illegible]英吉利人[illegible]紅毛[illegible]
右之通申達候[illegible]
此旨申達[illegible]
[illegible]

二月廿三日

牧野[illegible]様

永井三左衛門

清右衛[illegible]兵衛

廿号

外ニ

一 此節諸色中高値ニ付

人別ニ応シ格別之格ニ而申付候ハ其代大勝手ニ相成

者ニ諸品高値之数ニ而御所向ニ差支候

其上義理之里数御定之者共申立候

相応申付候所之格ニも上座ニ而相談之上可被申付

此段申達候

但シ当分之間右之上候之者共推一統延候而

追而其節入用之段ニ寄而可申付候事

右之趣ニ相違無之様可被申付

尤右之趣急度可申達候

一 西国筋御下向ニ付而も出候者之外人数為入出度旨
申候　御家様并取次共へ申聞届有之候処
長老衆御用之節ハ人数召連候儀之者者無之候
間ハ無理ニ無用之義ニ取計申上候ニ付

一 当国蒲原郡村方百姓共へ申聞候処　御用
御城下人数召連候者之儀ハ 御用向之者
組頭之事
右之組ハ永井監物殿へ引渡候様申触出組
百姓共へ相渡人足ハ寄合候而惣百姓共へ申
相極候処組頭相渡候百姓共へ申渡候様申
以上

三月廿日　　上田主水

一 米屋太兵衛儀先達而より相掛合候所一向ニ埒明不申
　候ニ付御屋敷へ差出候処相済不申候ニ付
　御手前より御掛合被下候様御頼申上候
　以上

廿九日

一 於御用部屋雁之間次ニ而 内山平右衛門殿 大目付 渡候様
被仰付候 御書付

志二八右之通[illegible]日番ニ而 渡シ候様被申渡候

一 右御用番 [illegible] 御用状 大坂表へ 御通之候

覚

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

廿七

廿八